



大慈寺墓園 永島家墓前

女性解放運動の先駆者 永島暢子を偲ぶ
八戸市出身で平塚らいてうや、女性活動家・女流文學者などと交流し、雑誌『女人藝術』を中心に健筆をふ

第10回「菊の花忌」開催

永島暢子を偲ぶ会創立十周年、遺志継ぐ誓い力強く、

八戸市出身で平塚らいてうや、女性活動家・女流文學者などと交流し、雑誌『女人藝術』を中心に健筆をふるい、社会活動家・女性解放運動の先駆者であった永島暢子が、実家の永嶋家の墓所（八戸市長者一丁目・大慈寺）に埋葬されたのが、四月十二日。

今年もこの日には、統一地方選挙後半戦対策の多忙な中、永島暢子を偲ぶ会の会員や、永嶋家遺族・八戸市民十五人が集まり、永島暢子の遺徳を偲び、墓碑と、遺影の前に手を合わせ、永島の遺志を確認し、その継承の誓いを新たにしました。今年は、永島暢子の生涯



No. 587

編集発行人 田中幹夫
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034
東京都文京区湯島2-4-4
平和と労働センター全労連会館内
電話 03-5842-6461
FAX 03-5842-6462
振替 00110-6-97793
定価 50円



永島暢子の墓前に手を合わせる参列者

を発掘し、永島の歩みや著作物、人間関係などの三部作を著した岩織政美（元八戸市議会議員）さんを中心、有志らによって「永島暢子を偲ぶ会」が結成されてから、創立十周年の節目を迎えました。また、創立初年から始められ

河野洋平さん（TBS報道特集一月七日放送）「戦争の準備をすれば戦争になる確率が大きい。平和を望むならば準備しない方がいい」評論家故加藤周一さん「九条の会講演会二〇〇五年十一月▼お二人の言葉、すうつと入ります。」歴史は繰り返す"といいます。だから繰り返させないために!!

(K)

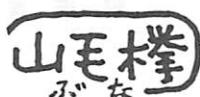
青森県版

2023年5月15日発行

第371号

〒030-0904
青森市茶屋町11番5号
TEL 017-718-3166
FAX 017-718-3167

青森県本部



▼県議選・弘前市議選が終りました。
高齢化した私たちとは、これから選挙活動にどう向き合ふのか話し合わなくしては……投票率が40.4%と半数以上

た永島暢子を偲ぶ「菊の花忌」も十回目を数えます。

式典では永嶋家ご遺族の

永嶋広子さんのお札の言葉や、

永嶋家の移動本籍地として、
永嶋酒店が営まれたゆか
りの地である、南部町から佐々
木副町長が臨席しご挨拶。

次いで内田弘志偲ぶ会会
長が「現状として男女平等社
会の実現は程遠いが、永島
暢子さんの意思を確認しな
がら、私たちがその意志を繼
承し、また暢子さんの顕彰を
続けていきたい」と、語つて
式典を終了しました。

また六月二十四日の「永島
暢子講座」(22回)では、「永
島暢子を偲ぶ会十年の歩み
を振り返り、永島暢子の永遠
性について考える」をテーマ
に、八戸市類家・八戸市福
祉公民館において、午後一
時半より開講されます。

(永島暢子を偲ぶ会
副会長・江刺家均)

絵手紙



野坂峯子 (東青支部)

四月九日、「一票を争う」県
議員選挙の投票が行われた。
再び戦争を起こさないために
岸田内閣の大軍拡に反対する
勢力が議席を維持できるかど
うか、「ジエンダー平等、子供・
子育ての充実や、物価の上昇
から生活を守る」を掛けた選
挙戦でした。新人を抱えた選
挙区・二期目の挑戦となる選
挙区などで、国賠同盟の同盟

員が支持の拡大・電話がけ・
選挙はがき書き等、積極的に
かかわり、大きな力を發揮し
ました。

大奮闘の結果、三議席を守
ることに繋がりました。

ここで得られた力で「戦争
する国」や「戦争前夜の日本」
を押し戻すさらに大きな力に
変えて行くことが大切だと感
じています。

(R)

青森県会議員選挙を

振り返って

2023年 国賠同盟 東青支部総会

■日時 5月27日(土) 午後1時～3時

■場所 アピオあおもり 1F 保健指導室

訃報



沼田 勉さん (享年八十五歳)

二〇一三年三月三日逝去されました。

青森県本部理事・上十三支部長を歴任され、同盟の発展に尽力されました。これまでの活動に感謝し、心からご冥福をお祈り致します。

沼田支部長を偲んで

悲しいお知らせです。我が支部の支部長の沼田勉さんが二〇二三年三月三日亡くなりました。享年八十五歳。我が支部の簡単な沿革を述べつつ、沼田支部長を偲びたいと思います。

二〇一三年、荒尾次枝・砂渡久美子が入会したとき、まだ上十三支部はできていませんでした。そうそうたる方が数名すでにおりましたが散在しているだけでした。そこで荒尾・砂渡が支部を立ち上げ、会員を増

やしていきました。二〇一四年に沼田さんが入り、二〇一五年に支部長になつていただきました。以後、沼田支部長、荒尾と砂渡が事務局という三人体制で今までやつてきました。

沼田さんには「こつこつ」という言葉がついてまわります。

こつこつ署名集めをしこつこつチラシ配りをします。街宣・諸行事にはいつも積極的に参加します。事務局の提案に的確なアドバ

の手紙でも書こうかと思つていた矢先のことでした。

コロナ禍で総会はじめ強会、忘年会など人の集まる行事はことごとく中止し、総会は総会資料を配るだけでした。そのなかで、できただきました。そのなかで、できただきました。その後、沼田支部長、荒尾と砂渡が事務局という三人体制で今までやつてきました。

今年は三月十五日に三名で十和田市で街宣をしました。三月十五日がどんな日であったのか、時代背景と世相、そして国賠同盟の目

標や活動内容などリレートークしました。いつも沼田さんが一緒にいました。国賠の黄色い旗を持ってそばに立っていました。本当に寂しかったことがありません。

突然入院し、手術して胃を全摘出したとのこと。一度退院して集まりに顔を見せていましたが、再度入院。そして突然の訃報でした。コロナ禍での入院で見舞うこともできず、励まし



上十三支部の学習会(2014年)

葬儀の時の沼田さんの写真の優しいまなざしを時々思い浮かべ「頑張ろう」と自分を鼓舞したいと思います。

上十三支部
砂渡久美子

エッセイ

私が出会った子どもたち…… 子どもの時代を生きて欲しい ——いすれは笑い話になるようだ——

(5)

相談室 工藤ふみ

先生のことが笑い 小6年 濑川

カリカリカリ。
テスト直しをしている。
円のかんたんな問題だ。
「終わつた」

先生に見せに行く。

「はい、先生」

スッとさし出したら、
なぜか、先生が顔をしかめた。
「瀬川君、ここのまちがつてゐる」と言つてきた。

ぼくは目を丸くして、

「えつ、まちがつてないよ」

もう一回直しをした。

そこは、ただのかけ算とわり算

が出てくれる問題だつた。

そろばんが超得意なぼくは、

「四かけの四かける三・一四わる四」

などは、すぐ計算してしまつた。

先生が自分で書いた答えを見直

した。

「わたし、まちがつてた。」「わたくし、まちがつてた。」

心の中で、

「わあい、勝つたぞお。」「笑いながらさけんだ。」

瀬川君は、五年生のクラス替えで私が受け持ちました。低学年から理解力があり、優等生でした。授業中も的を得た発言をし、生活もしっかりとしていました。五年生後半のことです。掃除終了を伝えに班長が来ました。私は、別な掃除区域を見ていました。班長が「瀬川が今日狂いました」と言いました。私は「あら、どんな風に」と聞きました。「掃除時間中に掃除用具入れの中に隠れた」のだそうです。面白いことをするなあと思いました。他の子は、優等生の瀬川君がどうしてそんなことをするのだろうと思つてゐたようです。彼を呼んで聞いてみると、「三年生の時、掃除時間中に、みんな遊んでいた。掃除用具入れに入つて遊んでいた。それを見てぼくもやりたかったが、先生に叱られると思つてやらなかつた。案の定、入つた子達は、みんな先生に叱られた。でも、僕も入つてみたかった。だから今入つてみました」だそうです。入つてどうだつたか感想を聞くと「臭かつた。もう入らない」と笑つていました。聞いていた皆さんも笑いました。こんなことは、他の子達は卒業しています。「今

できて良かつたねえ」と言いました。子どもは、遊んで、叱られて、勉強をして育つていくのです。悪いことをして、大人に叱られ、反省し、大人になつた時、笑い話にしていくのです。私は子どもも達と出会つた時、「十年すればいい」とあります。いろいろ事が笑い話になります。だから、悪いことをしてもみんな許します。許されるような生き方をしてください」と言います。その後、瀬川君は、お笑いチームを作ります。学級でお笑いをして見せるのです。それだけで飽き足らなくて、給食時間、他所の学級に見せに行きます。座布団なんかあげられないと言われるなり、面白いと言われたりしながら、学校生活を楽しくすごしていきました。

五百円、お子さんに上げてください。母の方へ走つて行った。「ふみ先生が、修学旅行の余りの連絡帳を見せた。」「これ、あんた書いたでしょ?」見せた瞬間言われた。「ただいま」ついに母が帰つてきました。母の方へ走つて行った。「ふみ先生が、修学旅行の余りの五百円、お子さんに上げてください。連絡帳を見せた。」「これ、あんた書いたでしょ?」

「ふみ先生、そんなこと言つわけないじゃん。」笑いながら言われた。ばれた。

「何で分かったの。」「ふみ先生、そんなこと言つわけないじゃん。」

悪いこと 小5年 佐久

一学期に友達と、物を取つたり、落書きなどをした。そのせい教室の磁石も取つた。そのせいで三年生の授業ができなくて、困らせてしまつた。ふみ先生も困らせてしまつた。生き物も殺してしまつた。すごい悪いことといつぱいやつた。もう絶対やらない。

悪られた

小6年 福山

「今日絶対に連絡帳を見せないと。先生が言つた。それは、修学旅行の余り五百円を返金します。」「細工しちゃえ。連絡の後ろに、

言葉で声に出して言つているのでしょうか。子どもたちは子ども同士で遊んだり、喧嘩したり、仲直りしたりする子ども時代を過ごしているのでしょうか。大人達は、子ども達時代を保障しているのでしょうか。気がかりです。